

元寇の島 鷹島を 水中考古学の 拠点へ



日 時

平成28年11月6日(日)
午後1時から午後5時まで

会 場

松浦市文化会館ゆめホール
長崎県松浦市志佐町浦免1110番地 (座席数505席)

入 場 料

無料(申込不要)

問 合 せ 先

松浦市教育委員会文化財課 ☎0956-72-1111

主 催/自治総合センター 松浦市・松浦市教育委員会

後 援/総務省 長崎県 長崎県教育委員会 松浦市史談会 松浦市文化協会 まつうら観光物産協会
松浦党研究連合会 長崎新聞社 西日本新聞社 RKB毎日放送このシンポジウムは
全国モーターボート競走施行者協議会からの
拠出金を受けて実施するものです。

■ 日 程

受 付 12時30分～13時00分

開 会 13時00分

基 調 講 演 13時10分～13時55分

「日本における水中遺跡の保護」

文化庁 文化財部 記念物課 専門官 ^{なかむら たかし} 中村 崇志 氏

鷹島2号沈没船船体

基 調 報 告 ① 14時00分～14時45分

「鷹島海底遺跡における発掘調査状況」

琉球大学 教授 ^{いけだ よしふみ} 池田 榮史 氏

鷹島2号沈没船船首

基 調 報 告 ② 14時50分～15時35分

「海外における発掘調査・活用事例」

九州国立博物館 アソシエイトフェロー ^{ささき らんてい} 佐々木 蘭貞 氏

パ ー ネ ル デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 15時50分～16時50分

コ ー デ ィ ネ ー タ ー ^{いまづ せつお} 奈良大学 教授 今津 節生 氏

パ ー ネ ラ ー (考 古 学) 琉球大学 教授 池田 榮史 氏

(保 存 処 理) 奈良大学 教授 今津 節生 氏

(海 外 事 例) 九州国立博物館 アソシエイトフェロー 佐々木 蘭貞 氏

(史跡整備活用事例) 佐賀市企画調整部三重津世界遺産課 課長 ^{きしま しんじ} 木島 慎治 氏(ジャーナリスト) RKB毎日放送 記者 ^{いまはやし たかふみ} 今林 隆史 氏(地 元 代 表) 松浦市長 ^{ともひろ いくひろ} 友広 郁洋

閉 会 16時55分

■ 趣 旨

長崎県松浦市鷹島南岸海域において、昭和55年から学術調査が始まり30年の時を経て、平成23年秋に元の1号沈没船が発見された。これを契機に平成24年に海底遺跡としては日本で初めて「鷹島神崎遺跡」が国史跡に指定された。さらに平成27年夏には2号沈没船も確認され、いまや水中考古学で世界中から注目を浴びるホットスポットとなっている。

国内には水中遺跡として500余りの遺跡が周知の埋蔵文化財包蔵地となっているが、継続的に学術調査が行われているのは、ここ鷹島だけである。

諸外国では、国家を挙げて発掘調査に取り組むなど積極的な活用事例があるものの、日本には水中考古学を専門とする研究機関がないのが現状である。

シンポジウムでは、国史跡鷹島神崎遺跡の本質的価値を再確認するとともに、鷹島を水中考古学の研究フィールドとしての魅力を訴えていく。

また、これまで30年余り鷹島で培った学術的な調査方法等のノウハウや海外の先進事例を交え、鷹島を今後の日本の水中考古学の拠点としていくため、このシンポジウムで検証をしていく。